

梢葉間開細瓣淡粉紫花黃心葉味微辣是可以充與女奈

〔醫心方一〕草蒿和名於波岐

〔類聚名義抄八〕蒿菜オハキ 葳蒿同 莪蒿オハキ 蒿呼蒙反オハキ 薺蒿

〔倭訓栞後編三〕うはぎ 萬葉集に兔牙子と見えたり仙覺鈔に兔萩也といへり内膳式には蒿を

もよめり今いふよめがはぎなりといへり一説におはぎに同じよめがはぎは此大はぎに對する名にして稟蒿也おはぎは薺蒿也といへり

〔倭訓栞後編十八〕おはぎ 和名抄に莪蒿をよめり歌に若菜と同じく摘事をよめりさればうは

ぎと同物なるべし今も畿内によめなをおはぎといふ近江にはげといふ同書に菊をかはらおはぎと訓せり

〔倭訓栞後編十七〕よめな 媛菜の義鶏腸菜をいふよめがはぎともいへり本草に野菊と見ゆの

ぎくともいへり

よめがはぎ 住吉の遠里小野のよめがはぎあらくは吹そむこ山の風

〔大和本草五〕ヨメガハギ 薺蒿略 ヨメガハギハ野圃家園ニ不用人力而叢生ス有香氣秋花ヲ開似野菊

薺蒿ハ白蒿

〔重修本草綱目啓蒙十〕臨草 薺蒿 キツネアザミ センボンヤリ ヒメアザミ略 中

夏後子落テ秋ニ至テ自ラ生ズ初ハ地ニ就テ叢生シ蒲公英ノ生ズルガ如シ葉ノ形ハ子薺葉ニ

似テ面深綠色背ニ白毛多シ質軟ニシテ刺ナシ春ニ至リテ漸々臺ヲ抽テ高サ三五尺瘠地ノ者

ハ苗小ナリ漸洳シツクノ地ニテハ肥大ナリ枝葉共ニ互生ス四月枝末ゴトニ淡紫色ノ花ヲ生ズ形大

薺花ノ如ニシテ小ナリ又白花ノモノ稀ニアリ俱ニ花後絮トナリ飛ビ落ル處ニ生ジ苗根共ニ

枯ル具原翁ノ説ニヨメナヲ以テ薺蒿ニ充ツルハ非ナリヨメナハ救荒本草ノ鷄兒腸ナリ